

2 勝連半島地先における定置測流結果について

友利 昭之助

目的：沖縄沿岸における潮流観測の一環として一昼夜定置測流を実施した。

期間：昭和49年5月30日1200～5月31日0900

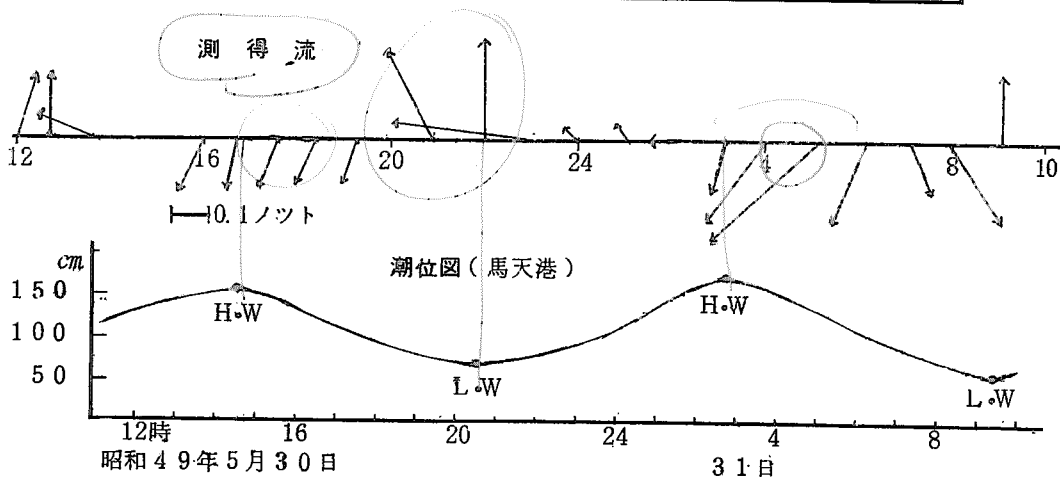
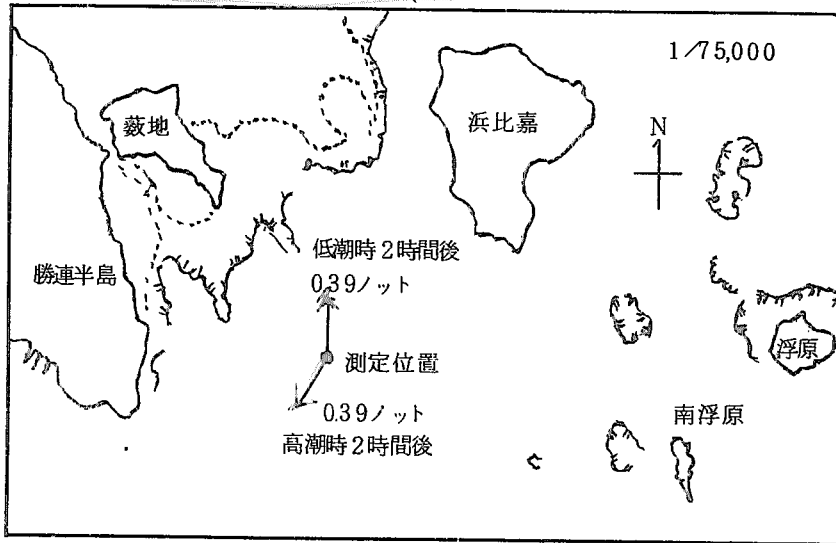
調査船：くろしお（21.44トン）

測定位置：勝連崎東0.9湊（ $26^{\circ}-17.7' N$ $127^{\circ}-56.5' E$ ）

使用測器：CM-2型電気流速計 測定範囲流速 $0.02 m/s \sim 0.8 m/s$ 流向 $0^{\circ} \sim 360^{\circ}$

方法：調査船をアンカー固定し、上記の測器を水深5m層に沈下し1時間毎に流向流速を読み取った。測定期間中は風向SW風力3～4水温 $25.8^{\circ}C$ 、透明度7.5m、水深13mであった。

潮位曲線は昭和49年沖縄の気象暦（日本気象協会）から那覇港を基準として馬天港の潮時、潮位を次式で求めた。 $T = t_0 + \Delta t$ $H = (h_0 - h) \times h + \bar{H}$



勝連崎E.0.9湊 ($26^{\circ}-17.7' N$ $127^{\circ}-56.5' E$) の5m層における潮流ベクトル

また昭和50年5月30日、31日は月令8.3、9.3で小潮に向う期間にあった。

結果：上げ潮時の最大は30日低潮後2時間目に流向 0° 流速0.39ノットで最小は30日低潮後4時間～5時間目に流向 320° 流速0.09ノットであった。下げ潮時の最大は31日高潮後2時間30分目に流向 210° 流速0.39ノットで最小は30日高潮後4時間目に流向 190° 流速0.15ノットであった。潮汐流の巡回方向は日周潮のものが時計回りである。?

昭和47年に宮城-平安座島間の埋立工事のため平安座東方の浅海域から長期に大量に砂泥が採取されていたが、潮流観測結果から浜比沿岸、津堅一帯まで砂泥採取に起因した大量の砂泥にカバーされていた事は充分考えられる。

半日周潮

その data は?

緩慢 周期的昇降

[何分遅延]
高潮時の遅延が早い